

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	令和3年7月17日	評価結果市町村受理日	令和3年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Ji_gosyoCd=2278200106-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づき、家庭的な雰囲気やゆったりと楽しく自由でありのままに、その人らしい生活が出来るよう支援に努めています。自然に囲まれた環境の下、季節により敷地内を散歩し、鳥のさえずりや樹木の成長を実感し心を和ませています。新型コロナウイルス感染予防対策を実施しながら、地域のお店を貸し切りにしての外食やテイクアウトでの食べる楽しみや近隣へのドライブ外出を実施し、余暇を満喫していただけるよう取り組んでいます。”たくさんお話してもらい、たくさん笑ってもらい、たくさん歩いてもらう”を目標に、毎日の体操・散歩を実施することで健康を維持し、利用者にとって居心地の良い居場所になるよう心がけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

初詣、地の神様のお供え、焼き芋や五平餅づくり、七夕飾り、花火会etc.…年中行事が切れ間なく提供され、利用者からも「もっとやって〜」「いい保養をさせてもらった」と、実感のこもった言葉がこぼれています。「カラオケに熱狂しつつ、お好み焼きをつまむ」ことが地域の人たちと喫茶店でできた日も前はありましたが、コロナ禍となっても職員の意欲と工夫は健在で、近隣の食堂を貸し切ったのドライブ外食を実現させています。共用型認知症対応型通所介護を運営していることから台風来訪には独居高齢者を預かる事をはじめ「より地域に根ざした」活動を叶え、暗くなりがちなコロナ禍での生活に優しい光を注いでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、全ての職員が共有して実践につなげています。	人材育成委員会では「理念について考える」取組みがあり、また年に1回は管理者から講話する機会もあります。運営推進会議の資料には「理念・目標・計画」を記載、地域のメンバーとも共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で行事が中止されましたが、感染予防対策を実施し、昼食のテイクアウトや外食は近隣の店舗を借り切りで使用しています。	ボランティアの草刈り作業は継続され、コロナ禍を心配して手作りマスクが家族、地域からも届いています。区民祭やふれあい広場での関わりはないものの、近隣の食堂では貸切で外食を楽しむことができます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて民生委員や自治会長へ、ご利用者の様子や認知症に関する情報を提供致しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策で施設での会議は避け、ご利用者の様子や認知症に関する情報提供を2ヶ月毎に報告し、書面で意見をいただきました。全職員へ周知し、サービスに反映出来るよう話し合いを実施致しました。	過去6回の内1回参会が叶ったのみで、ほかは書面開催として、行政・自治会長・民生委員・代表家族に郵送しています。返信にはコロナの中での工夫を評価する言葉もあり、励みになっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政職員が毎回参加しています。会議後は会議録を作成し、提出しています。	行政からはマスクや消毒液のほか、感染予防対策などの情報提供がメールでこまめに届いています。ワクチンの接種等浜松市の状況が把握できており、運営に役立っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会を中心に、施設内研修会の開催や事例検討会を実施し、全職員が常に身体拘束ゼロを意識して取り組み、実践しています。	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づき、法人の安全対策委員会が毎月開催されています。また研修会はコロナに伴い中止していますが、他施設の事例検討を委員会内でおこない、職員に資料を回覧して代替としています。	委員会の開催は毎月で丁寧ですが、現場における課題解決や小さな疑問が早期に発見できるよう、事業所内における協議が年4回位置づけられると、なおよいと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ユニット会議を開催し、虐待行動を行っていないか、職員間の行動を振り返っています。また、全職員で虐待行動について学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が成年後見制度を使用しています。他に必要と思われる対象者には、活用できるよう情報提供等を行い支援致します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設内の見学をしていただいています。日常の様子等を伝え、契約にいたるまで、十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防対策の為、ご家族様と行事を実施することは中止としましたが、窓越しやテレビ電話での面会の際やメールで意見を伺っています。	通信はありますが、これまでは個別の状況は面会で直接家族に伝えていました。「窓越し面会」「面会するのは1家族に限定」といったルールがあって歯がゆいのか現実メールでのやりとりが増えています。	個別の1ヶ月の状況報告や写真アルバムが家族に届くと、なお安心です。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議を開催し、意見交換を実施しています。しかし、意見がある時はいつでも傾聴する機会を設けています。年1回は管理者との個人面談の機会を設けています。	男性職員の調理がレシピ通りにできるかを心配したり、ベテラン職員が間違えると「(家庭なら)それもありがたね」と笑いに変える様子からは、上下なく和気藹々と言いあえていることが観えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間・やりがいなど、必要な条件整備のため、法人理事会に提案して職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修会を実施し、職員のスキルアップを図っています。また、外部研修も出来る限り参加できるよう配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入し、研修会を通じて交流・情報交換等実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にご本人様の要望を聞き、生活パターンを取り入れた支援を心がけています。また、ご本人様が安心できるよう、いつでも傾聴する姿勢を持ち、信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族様に要望を聞き、可能な範囲でその要望に応えれるよう、またいつでも傾聴する姿勢を崩さず、関係作りに務めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご本人様・ご家族様の意見を十分に理解し、支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と共に支え合い、寄り添って、日々の暮らしの中で絆を深めています。良い関係づくりを意識し、行動しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況を報告しながら情報を共有し、支援しています。病院受診時にご家族様に付き添いをお願いし、ご本人様との絆を大切にいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策で現在は中止していますが、友人・知人の訪問を通じてなじみの人との交流を大切にしています。また、入所前のかかりつけ医も可能な範囲で通院していただいています。	コロナ禍で入所前の関係継続は難しくなっていますが、ウクレレの伴奏にのせて披露する日に向け一糸乱れずポンドダンスを練習する姿には、「ここで馴染みの仲間ができた」ことが十二分に伝わります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染予防対策で規模を縮小していますが、レクリエーションや行事などみんなでいき、互いに協力しながら良い関係が築けるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから同敷地内の特養に入所した場合には、他ご利用者様と面会に行ったり、ご家族様にも声掛けを行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ちょっとした会話にその人の思いや暮らし方の希望、意向が隠れているため、寄り添い傾聴しながら把握に努めています。	料理が苦手な職員への指導は有用感を増幅させ、仲間同士で丁々発止の口出しと日もあります。また伝統的な料理がきっかけで想起が膨らむこともあり、軽作業を通じて意向把握が進んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴とさまざまな情報を重視し、ご本人様の生活リズムに合わせて支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に一人ひとりの事柄を記録すると共に、職員用の連絡ノートで全職員が情報共有できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ユニット会議を開催し、ケース検討会や担当者会議を実施しています。情報収集及び情報共有し、ご家族様にも日頃の様子を伝えながら意向を確認し、介護計画書を作成しています。	月1回会議が開催され、当日公休の職員からはあらかじめ意見をもらい、全員分のカンファレンスを実施しています。沢山ではないものの介護計画書のサービス内容からは個性(その人らしさ)が伝わります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別に記録し、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して、特養の相談員や機能訓練指導員・看護師等にも協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームやまぎきで共用型認知症対応型通所介護事業を行い、ご本人様が持っている力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を聞いて、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、納得できる治療が受けられるよう支援しています。	1名に対しては月1回の訪問診療ですが、一度に全ての人を診ずにこまめな訪問があります。熱発があると「自分で診たい」と、夜中・土日かまわず駆けつけてくださり、親身な態勢の協力医に助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養看護師へ相談し、状況に応じてかかりつけ医に連絡をとり、指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会へ行ったり、病棟看護師やご家族様と情報共有を密し、退院調整を実施しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人様やご家族様に意向を伺っています。状況によって意向も変化する場合もあり、意向を尊重した支援を行うようにしています。	契約の折には「看取りはおこなっていない」ことを家族には説明していますが、敷地内には母体の特別養護老人ホームもあることから、「重度化したら移設(がスムーズ)」との目測が家族にはある様子です。事業所でも希望があれば援助する態勢です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、会議や勉強会等で初期対応の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、防災訓練等の災害対策を実施しています。また、地域との協力体制を築いています。	コロナ禍であっても通常通り、避難訓練を実施しています。法人の管理栄養士が非常食をアレンジして献立を考案したり、試食体験を経て新たなものと入れ替える等、こまめに見直しもおこなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、施設内研修会で接遇マナーや人権擁護について学ぶ機会を設けています。	「よく食べ、しゃべって、寝て、歩く」暮らしを基盤に、職員も含み10年インフルエンザ、ノロウイルスの感染とは無縁な一方で、自由さが過ぎて手がでる利用者もいますが、職員が速やかに間に入っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重し、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに応じた、無理のない支援を実施しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は特養に来ている訪問理美容を利用しています。希望があれば毛染めや馴染みの美容室等への対応も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて役割分担を行い、職員と一緒に楽しく食事作りや片付に参加できるようにしています。	手作りの献立を囲む団らんをベースに、イベント食も多彩です。炭火焼きは年に1度の恒例で、薩摩芋をアルミ箔でくるむのは利用者も手伝うほか、ノンアルコールで乾杯した「居酒屋メニューの日」もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を管理栄養士が作成し、介護職員が食事摂取量や間食・水分量を観察・記録しています。食欲低下や過食による急激な体重の変化なども視野に入れて、健康管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをして、口腔ケアを実施しています。必要に応じて、特養に来園される歯科衛生士のアドバイスを受ける機会を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握。トイレ誘導が必要な方には自尊心を傷つけないよう、誘導の声掛けを行っています。	前立腺肥大で尿意が出にくい人はバルーンが詰まって手術を受けるに至る等、一人ひとり課題はあるも、排泄チェック表でリズムを掴み、声掛けにより失敗をなくすよう努めており、現在布ぱんつを5名が維持しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や散歩等の運動を実施し、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日で入浴を実施し、清潔保持に努めています。また、入浴日以外でも希望されたり、皮膚の汚染が認められる場合には、その都度入浴を実施しています。	富士山の絵や暖簾で銭湯の風情を醸しだし、週3回1日おきの入浴が提供されています。「毎日入りたい」人は毎日とし、入浴日や時間の希望にも柔軟に応え、十八番の小原庄助さんの一節を引き出しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて、安心して休息したり、夜間も良眠できる環境づくりを心がけて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の内容をしっかりと把握し、体調の変化が見られた時は速やかに主治医へ報告し、指示をいただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を分担して、お願いしています。生活歴や残存能力を活かした役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換等の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防対策で誕生月の個々の外出は避け、近隣の人込みのない場所へ出かけるように致しました。	外出は難しい局面にありますが、広い敷地を活用した散歩が継続され、裏庭の梅の実で梅ジュースも造っています。人気のない場所を探してのドライブやアーカイブで旅情を堪能したり、お弁当やお寿司をテイクアウトして外食気分を味わうことが叶っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っています。今後自己管理が可能な方には、買い物の際に見守りで支払いが出来るよう支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された場合は、いつでも電話や手紙が出せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、誰もが居心地の良い環境づくりに努め、生活感や季節感が感じられる工夫をしています。	玉葱、茄子、胡瓜、馬鈴薯、薩摩芋、里芋、トウモロシ、イチゴ等畑には八百屋が出来そうに季節の野菜が実り、アスファルトの割れ目から筍が顔を出す面白エピソードもあり、風と光を日々感じ山村で暮らすような日々があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームにおいて、ゆったりと過ごすことができるよう、ソファで大勢の方がくつろげる空間を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入所前に過ごしていた部屋とできるだけ近づけるよう配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫しています。	氷川きよしのポスターに囲まれている人、至るところにモノを置いていて掃除が難儀な部屋、溢れそうに洋服を持ち込んだのに1枚を着倒す人、さまざまですが何よりもその人らしくを第一としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれトイレと洗面所が設置されており、安全にかつ個々のプライバシーが守られるよう工夫しています。		